

栃木県の
ローカルSDGs
情報可視化・応援プロジェクト
(UU3Sプロジェクト)

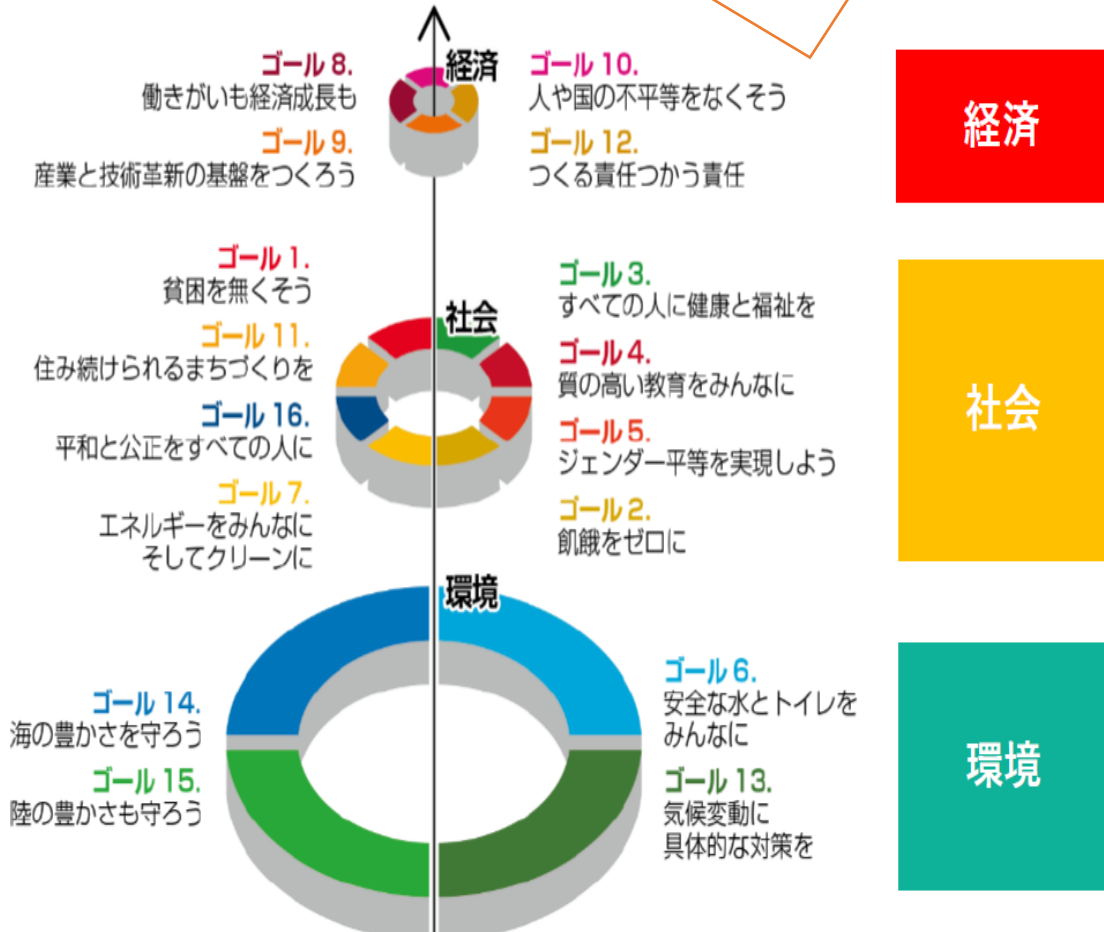
宇都宮大学国際学部
環境と国際協力(高橋若菜)研究室

栃木県地域大学連携活動支援事業 最終報告会
2024年2月5日

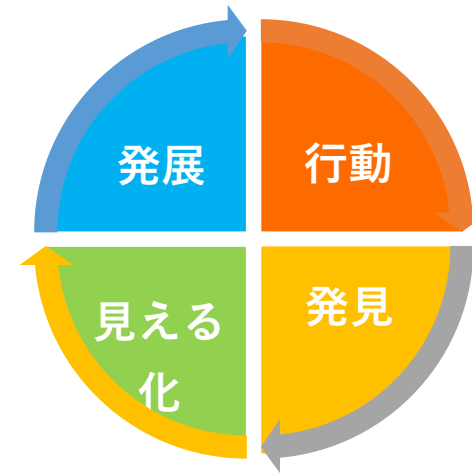


UU3S Project (Utsunomiya University, Students' SDGs Strategy) とは?

SDGs Wedding Cakeが示すように
経済目標の達成には、環境と社会目標の
達成とパートナーシップが不可欠!



カーボンニュートラルな循環型社会に向け、
いかに持続可能な方法で移行できるのか?



学生、専門家、行政機関、NPO、市民の方々と
パートナーシップを広げ、
実践活動を通じて体感した上で、
多文化公共圏 (多様な背景をもつ人々が自由に意見交
換・合意形成す場) を通じて、見える化・情報発信をはか
り、SDGsにおける知識や行動の選択肢を増やす

UU3Sプロジェクトにおける今年度後半の重点分野

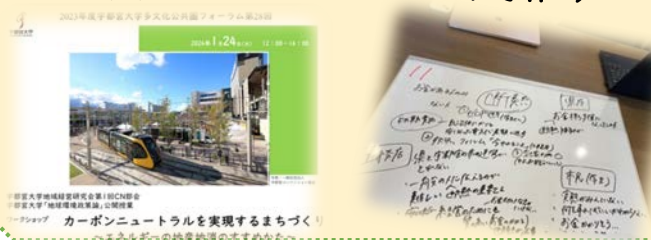
①地域の脱炭素戦略

(エネルギー効率改善)

- ・地域導入への情報発信
(足利市・小山市講演会)



- ・卒業研究への発展
エネルギー地産地消において
(まちづくりワークショップ開催)



②リフィルうつつのみや

(脱プラ+脱炭素+地域活性化)

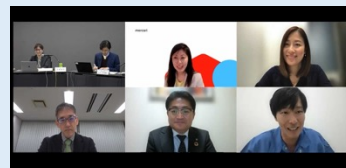
- ・リフィルスポットの増大と広報
(ミヤラジ出演、地域スポット開拓)



- ・リフィルスポットの体験と交流
(リフィルツアー、リフィル広島サミット)



- ・脱炭素循環型社会への提言
(環境省WSへの参加)



・上段：左から高橋教授、環境省、メルカリ、末吉氏
・下段：左から山台市、大崎町、滝沢氏

③NbS(宇都宮×自然の

ポテンシャル開拓)

- ・NPOとの交流・参与型観察
(里山保全活動、市民農園活動)



- ・自然と調和したまちづくりの
提案 (宇都宮まちづくり提案)



①地域の脱炭素戦略：これまでのおさらい

2021年度

2022年度

2023年度



大学・NPOが協働で、宇都宮の持続可能なエネルギー報告書作成。驚きの再エネ・省エネのポテンシャルを知る。



ルンド大学・宇都宮市と協働。脱炭素地域戦略研究 (WS・報告書)



日本の盲点、エネルギー効率改善を教員、研究者、NPOらと深掘り、提案→WSを重ねる



今年度の後半

①研究成果を県内自治体等に発信 (小山市、足利市等)

②鳥取・山形調査 →卒業研究へと発展

情報普及 (WS開催)
宇都宮市長へ報告



鳥取・山形調査→卒業研究へ発展



▲卒論発表会の様子（撮影：遠藤）

鳥取

『欧州・日本・鳥取県の断熱基準の差異をめぐる認識論的考察』

- ✓ 欧州では断熱が社会正義、環境、健康など、**多様な面でメリットを有するもの**として認識されている
- ✓ 鳥取県では健康と住宅が密接に考えられ、断熱の費用対効果についても認識◎

断熱がもたらすメリットを認識する重要性

鳥取

『自治体新電力の発展拡大における障壁と課題 一宇都宮市と先行二事例の比較分析を通して一』

- ✓ 地域課題解決の主体・再エネの最大活用に向けて**自治体新電力**が着目されている
- ✓ 鳥取県米子市の自治体新電力では、エネルギーの地産地消を通して地方創生を目指す

ノウハウ・知見を地域内に蓄積する重要性

山形

『なぜ日本では地中熱利用が広がらないのか 一国際比較・国会会議録言説分析、インタビュー分析をもとに一』

- ✓ 国際比較をもとに、政治的要因をさぐり、政策決定の場での適切な課題設定、国のリーダーシップ、戦略的政策の欠如を析出。有力議員による慎重派の言説と専門的知見の乖離も指摘。

地中熱の戦略的な政策を国で行っていく重要性

市民の方々や政策決定者への情報提供＋議論

おやま市民ビジョン会議 学び合うセミナー/足利市 地球市民講座

自治体が抱える課題とは？ 市民の方々が考える「脱炭素社会」とのギャップを埋めるには？

セミナー内容

- ①気候変動の時代の共生社会について(高橋先生)
- ②小山市/足利市におけるカーボンニュートラルの実現可能性と経済波及効果について(産業技術総合研究所 歌川学先生)
- ③エネルギー効率改善による共生社会への提案(学生・NPO)
- ④市民の方々とディスカッション



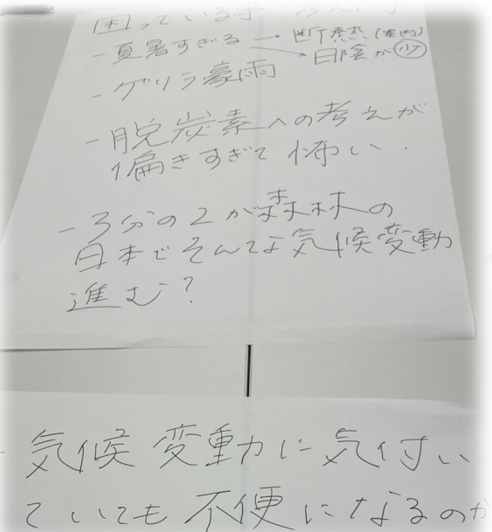
▲発表のようす写真:2023/10/25

小山中で印象的だったこと

- ・小山市長が、脱炭素の必要性を自らの言葉で語り、最後まで真剣にご参加。
- ・部課長クラスの方と市民の方々が協働し、真剣な議論を展開されていた。

足利で見つけられた課題

- ・市内で既存の補助金制度などを活性化すること。
- ・市民の方々と研究者の脱炭素に対する認知の差を埋めること。



▲市民の方との議論で出てきた課題 写真:2023/11/17 @小山市役所

②リフィルうつのみや これまでのおさらい

①ペットボトルなどの使い捨て容器は自然界で何百年も分解されずに残る!



その被害は生態系、
途上国だけでなく
いずれ自分たちにも!

②生産、輸送、冷蔵、リサイクルの段階で多くのCO2を排出!



2021,2022年度の
海洋プラスチックに関する
映画会・WSをきっかけに発足

給水スポットを開拓・リフィルの魅力発信

大学にも給水スポット
を設置!



もったいないフェア
出展!



登録件数が増加!

5件 → 32件

(昨年3月) (2023年1月25日時点)

②リフィルの普及促進 行政・市民社会と共創

①ミヤラジ出演

身近なエコとして
リフィルを市内へ発信!!

今年度末にも
出演決定!



②宇都宮市冒険活動 センターの登録

公共施設登録
の突破口に!!



写真:塚原綾子(うつのみや環境行動フォーラムメンバー)

③リフィルツアー開催

地域とのつながりを見つめ直し、課題を共有!
今後の活動に弾みをつけました!

今市浄水場

- ・水道水がどこから来るの?
- ・浄水の仕組みとは?



参加者同士の意見交換

- ・リフィルうつのみやの課題は?
- ・今後の活動に向けて

光林寺

- ・リフィルスポットの見学
- ・「まち寺」の意義を学ぶ



出典:光林寺ホームページ

学生の感想

- ・宇都宮市の美味しい水の秘密を知ることが出来た!!
- ・水道水は美味しくないという社会のイメージを変えることがリフィル拡大を加速させるかもしれない

②環境省WSへの参加

第5次循環型社会形成推進基本計画の策定において若者のニーズや思いを届け、次期計画への反映をめざす!

【若者の立場から伝えたこと】

- ・環境に優しい選択肢を行うための**消費者のエンパワーメント**が必須
- ・**環境と経済がトレードオフとの認識を改める**必要性
- ・リフィル活動を紹介&声を上げることで変化を起こせる
- ・行政のリーダーシップで**動脈産業にアプローチ**してほしい
- ・産官学民の連携、意見交換、相互学び合いの必要性



*上段：左から高橋教授、環境省、メルカリ、末吉氏
*下段：左から仙台市、大崎町、滝沢氏 ▲環境省 開催報告資料より

学生の意見を反映する場をもっと作ってほしい!

【WS後の学生意見】

- ・認識の差：リサイクル重視の政府vsリデュース・リユースを訴える若者
- ・海外事例紹介：環境問題を自分事に捉え行動に移す意識：参考に
- ・学生の意見は最後の2,3分のみ：影響力があったのか？
- ・今後どこまで意見が反映されるのかに注目
- ・**パブリックな意見公募の重要性**を認知

③ NbS 宇都宮市まちづくり提案

調査研究部門で
第2位！！

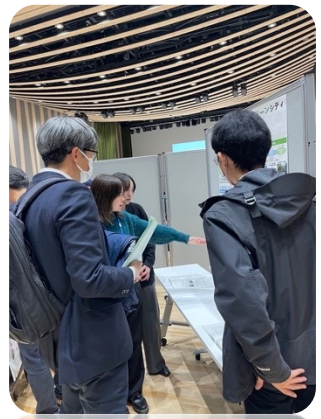
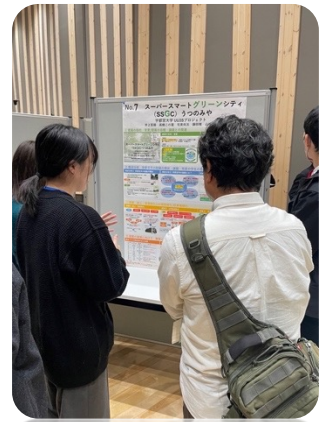
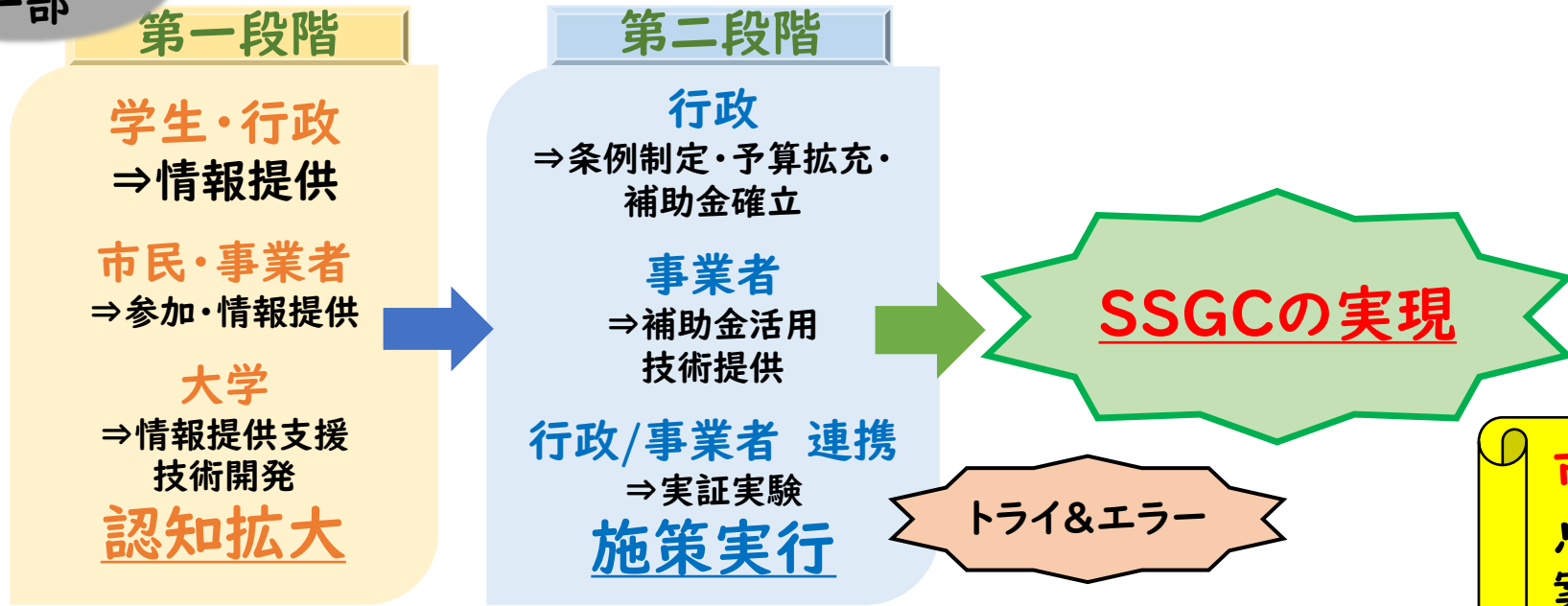


提案

スーパースマートグリーンシティ (SSGC) で
宇都宮市を緑豊かな街へ！！

- ①屋上・壁面緑化
- ②路面緑化
- ③駐車場緑化

提案の
一部



▲ポスターセッションの様子 (撮影：高橋・山崎)

市街地の緑の少なさを指摘した
点や多様な先行事例の分析、提
案の組み立て方等を評価いただ
きました！

アクター間のパートナーシップの構築

(市民、行政、事業者、大学の連携)

地域団体（うつのみや環境行動フォーラム） からのコメント

①地域の脱炭素戦略 （エネルギー効率改善）

再エネ熱や住宅の断熱など熱利用に注目しているのは、重要です。現地調査やWSの開催など事業者や市民の声を聞きながら実践的な活動を続けており、とてもいいですね。（Y.I.）



②リフィルうつのみや （脱プラ+脱炭素+地域活性化）

Refillという誰もが無理なくできる身近な行動を実践することで、CNを自分事として考えるきっかけになります。スポット登録から各地域の魅力発見にもつながる楽しい取り組みだと思います（A.T.）

マイボトル活動が栃木県内でも進行中ですが、それを更に推進させる活動でもあり、脱プラ・脱炭素そして地域交流に大きく貢献するでしょう。（N.S.）



③NbS（宇都宮×自然のポテンシャル開拓）

宇都宮中心市街地の緑の少なさ、ヒートアイランド、内水氾濫など、多くの社会課題を同時解決するNbSは素晴らしいアプローチですね。この提案は、今後のまちづくりにつながるものです。（T.M.）





ご清聴ありがとうございました。
今後も持続可能な社会のために活動を続けていきます！